

ヒマラヤ

No. 316



1998 MARCH



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

1999年H A J 登山隊員募集

ニンチン・カンサ (7,206m)

ラサから半日行程の所にヤムドク・ツォと呼ばれる大きくて美しい湖があります。その湖を見下ろすようにそびえているのが名峰ニンチン・カンサです。日本隊は既に3隊が登頂に成功しています。ラサからゆっくりと入山し、登山期間は26日間を予定しています。

H A Jの登山隊は全てガイド登山ではありません。自己責任を認識して登山隊を構成します。

記

1. 期 間:1999年7月20日～8月25日(37日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:80万円
4. 切り:定員になり次第
5. 申し込み:H A J事務局まで

未踏峰 (カバン 6,717m)

ガネッシュ・ヒマールとランタン・ヒマールの間は、数多くの知られざる山々があります。そのほとんどは6,000m級ですが、これまで全く試みられたことのない山群です。山容は7,000m級の山です。楽しい登山が期待できます。概要は下記のとおりです。

記

1. 期 間:1999年9月18日～11月1日(45日間)
2. 募集人員:6名程度
3. 負担金:95万円

1998年 海子山 (5,000m級)

四川省西部にある5,000m級の登山(本年)については引き続き募集中です。

1. 期 間:1998年8月1日～21日(21日間)
2. 負担金:60万円

表紙写真

バトゥーラ山群の未踏峰ハチングール・キッシュ(7,163m)の岩稜を登っていると、いつも隣に招き猫のようなアイカチュ・チョック(C6,500m)の岩壁がそびえ立っていた。ヒマラヤ&カラコルムには、登攀者を待ち受けているこんな大岩壁が多くさんある。特にこのバトゥーラ山群南面はアプローチも近く2～3週間での登山が可能だ。(記:山森 欣一)

ヒマラヤ No.316

1. 日本ヒマラヤ協会創立30周年記念講演会&祝賀会報告

4. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・インフォメーション・トピックス・Books〉

8. トータル獲得標高1997

山森 欣一

24. 事務局日誌

日本ヒマラヤ協会創立30周年記念 講演会&祝賀会報告

1月25日、本会の創立30周年を記念して講演会と祝賀会が開催され。天候にも恵まれ多くの参加者を得て盛大裏に終了した。

★講演会と記念楯贈呈の部

北の丸公園にある科学技術館・サンエンスホールを会場に9時15分、尾形好雄常務理事の司会で開会。初めに、オープニング映像として、東の雪宝頂から西のクラウンまでH A Jの登山の様子がスライド100枚によって紹介された。未踏の地に足跡を残したH A Jらしく、新鮮な映像の連続であった。

次いで主催者の挨拶として、遠藤登会長が外国からの講演者やH A J創立者の柴田顧問等に謝辞を述べた。そして、稲田定重理事長が30年の歴史を振り返り、年代ごとの主な出来事を紹介した。ここで柴田前会長が飛び入りで、H A Jを創立する切っ掛けになった留学生受入れなどのエピソードを紹介。

—記念講演—

I) 名塚秀二氏

〔世界の三大峰を語る〕

冬期サガルマータ（エヴェレスト）南西壁初登攀、チョゴリ（K2）北西壁初登攀、カンチェンジュンガ北東支稜（シッキム側）登頂など、ヒマラヤの東から西の八千メートル峰に足跡を残し、6座に7回登頂して現在日本で最も多くの八千メー



▲講演会風景、右上から講演する名塚、汪、カパディア、神原各氏と上は会場風景

▼記念の楯贈呈者写真。右から汪、カパディア、神原、坂口、山本、近喰、督永、辻、田中、永田、香取、各氏と遠藤会長



トル峰の登頂者である氏が、登山の切っ掛けやヒマラヤへの係わり紹介し、スライドを駆使してヒマラヤの美しさ、楽しさ、厳しさを語った。

II) 汪鉄銘氏

[中国登山の現状と問題点]

中国登山協会の副主席である氏は、中国では古代にも登山活動があったことを紹介し、旧暦の9月9日には「重陽節」と言って皆でお酒や弁当を持って山に登ったことを紹介、一種の健康法だったと言う。また、近代登山は、旧ソ連の指導を受けて1955年から始まったと紹介。1979年に外国隊に門戸を開いた結果、中国も多くの技術やノウハウを学び、刺激を受けたことを紹介した。現在では中国人の登山活動も活発になり、特に若者にはスポーツクライミングが大人気であるが、資金的に人工岩場や指導者不足のためレベル・アップに時間がかかると指摘。環境対策も統一した部門がないので対策も遅れ勝ちであることを指摘した。

(通訳は中国登山協会の季豪傑氏)

III) ハリシュ・カパディア氏

[インド・ヒマラヤの概念]

インド・ヒマラヤの東から西にかけて広く足跡



▲祝賀会で挨拶する遠藤会長

を残している氏が、自国の山々を地域別に紹介し、その後160枚に及ぶスライドを駆使して、シッキム・ヒマラヤから東部カラコルムに至るインド・ヒマラヤの全域について詳細に紹介し、ヒマラヤン・ジャーナル編集長の面目躍如たるものがあった。(通訳はH A J会員の菅原愛里さん)

IV) 神原達氏

当初予定していたネパールの元観光大臣であるハルカ・グルン氏が来日できなくなり、原稿が送られてきた。グルン氏は神原氏に代読を依頼。しかし、それでは味がでない。神原氏は1960年からグルン氏の友人であることも分かるように、その時代のネパールの精通者であるので、氏の体験を交えて紹介して頂いた。グルン氏の原稿にはネパールの観光経済が沢山の数字を使って書かれているので大変興味深いものであった。

—記念楯贈呈—

H A Jの30年の歴史を支えてくれた部外の皆様に遠藤会長から記念の楯が贈られた。前記の講演が1時間早く終了したため、来場済みの約半分の方に贈呈され、残りは記念祝賀会会場で贈呈された。その後贈呈者の記念撮影があり、17時講演会の部は終了した。楯贈呈は下記の皆さんであった。(講演会の部の参加者数は240名)

中国登山協会/インド登山財団/チベット登山協会/インド・チベット国境警察/日本山岳協会/日本勤労者山岳連盟/東京都山岳連盟/日中協会/ICI石井スポーツ/西遊旅行/ヒマラヤ観光開発/日本メディコ/ティ・エッチ・アイ/ダックス/エクスプレス・ハウス/日パトラベル/シカルトラベル/エアー・インドア/東京新聞出版局/山と溪谷社/近喰組/ハリシュ・カパディア/ハルカ・グルン/中坪印刷/

★祝賀会の部

九段会館に場所を移して行われた祝賀会は、18時頃からウェルカム・パーティ方式であったためあちこちで全国から久し振りに集まったメンバーたちの輪ができ華やいだ雰囲気の中で始まった。

定刻18時半、八木原囿明常務理事の司会で開宴。記念の楯贈呈の後、遠藤会長挨拶、来賓代表とし

て日本山岳協会の坂口三郎会長、中国の汪鉄銘氏、インドのハリシュ・カパディア氏、日本山岳会の大森薫雄副会長、日本勤労者山岳連盟の安藤英典副理事長と祝辞を戴き、日中協会白西紳一郎事務局長から乾杯のご発声を戴いた。会場の2ヶ所にあるテレビには、日中合同ラプチュエ・カンと日印合同リモの登山隊の様子が映し出されていた。宴もたけなわになる頃には、アチラコチラで同じ隊員同志の記念写真の撮影が始まり、最後には壇上での撮影大会の様相となってしまう交通整理がでるほどの盛況であった。

稲田定重理事長の締めめの挨拶があり、祝賀会は無事20時半お開きとなった。参加者は270名。なお、祝賀会参加者には、426ページのH A J 創立30周年記念誌「雪の住処 30年の記録」が贈呈された。この記念誌は残部がありますので希望者は事務局まで申し込んでください。

B5判 426頁 (他にカラー4頁 モノクロ12頁の口絵あり、また本文中に80数点の山の写真がある。)

価格3000円、送料500円

* 郵便振替番号 00100-6-48954

口座名 日本ヒマラヤ協会

通信欄に「雪の住処」と明記する。

★御礼

30周年記念行事の実施にあたりまして、会員の皆様に資金協力をお願いをして参りましたが、多くの皆様からのご協力によりまして、式典関係と出版の一部(記念誌発行)を終えることができました。引き続き出版関係を順次実施する予定であります。尚、野外と写真展につきましては、中止とし、機会を見て別途企画致します。これまでに寄せられました会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。(文責:山森 欣一)

◎ 1998年1月31日現在 資金カンパ

延べ人数: 251人 総額: 5,554,000円

下記の方々から3口以上のご協力を戴きました。

[30口] 八木原暁明 [20口] 遠藤登 [15口] 尾形好雄 [10口] 柴田金之助/山森欣一/寺沢善信・玲子/星野光/酒井國光/鈴木雄一/松館正義/井上功/佐々木千恵 [8.8口] 小林英見

▼祝賀会風景、上から日山協会・坂口会長、日中協会・白西事務局長、ヌン登山隊参加者



[8口] 八嶋寛 [7口] 稲田定重/出口當/後藤文明 [5口] 植松秀之/飛田和夫/名塚秀二/佐藤光由/小島守夫/野沢井歩/中岡久/山田豊/渡辺斉/土谷正伸/宮崎久夫/遠藤克昭/滝口良二/吉田秀樹・文江 [4口] 久保均 [3口] 古原和美/伊藤正毅/久保開次/中込清次郎/植竹清孝/西郡光昭/高田幸子/平田清志/岩水龍峰/山倉洋一/森山安次/天城敏彦/片岡邦夫/阿部淳/今村裕隆/山崎幸二/岩崎栄/橋本康弘・珠樹/市川春代/大西保/督永忠子/保坂昭憲/石川龍彦/品川幸彦/花崎洋/田村俊介/大内論文/金子勇一/中川裕/天宮央貴/匿名2名

地域ニュース

《中国》

中国人口は12億余万人

中国国家统计局の機関紙、中国情報報が1月7日、同統計局による最新のサンプル調査結果として伝えたところによると、中国の1997年末の人口は12億3600万人になった。(1. 8 東京新聞)

アメリカ映画、香港で上映へ

中国軍のチベット進駐を批判的に描いて中国政府の反発を招き、香港での公開が危ぶまれていた米国映画「セブン・イヤーズ・イン・チベット」が5月に香港で上映される見通しになった。1月8日付の英字紙サウスチャイナ・モーニング・ポストが香港の映画配給関係者の話として明らかにした。

関係者が上映の可否について中国政府の担当官に問い合わせたところ、『「一国二制度」なのだから香港のやり方でやればいい』として、公開に問題は無いとの回答があったという。

(1. 9 東京新聞)

《インド》

ソニア・ガンジー夫人、全国遊説スタート

2月に投票が行われる総選挙で、故ラジブ・ガンジー首相のソニア夫人(52)が1月11日、劣勢を伝えられる国民会議派のために、全国遊説を開始した。

国民会議派は前回選挙で第2党に転落、今回の選挙でも苦戦が予想されている。このため、党幹部が政治歴はないが、ガンジー家のカリスマ性を引き継ぐソニア夫人を説得。夫人は立候補は固辞したが、会議派への応援演説は引き受けた。

ソニア夫人の担ぎ出しで、国民の関心は高い。しかし、ソニア夫人がイタリア出身のため、一部に反発もある。投票は2月16、22、28日と3月7日の4回に分けて行われる。(1. 12 東京新聞)

ガンジーのひ孫が出馬

インド総選挙に「インド独立の父」故マハトマ・ガンジーのひ孫、トゥシャル・ガンジーさん(38)が出馬する。

トゥシャルさんはムンバイ(旧ボンベイ)在住のグラフィック・デザイナー。昨年11月末に崩壊したグジュラル統一戦線内閣(中道派14党で結成)に参加していた社会党からの立候補をこのほど表明した。

ガンジーの子孫としては過去に、孫のラジモハン・ガンジー氏が総選挙に2度立候補し、いずれも落選している。(1. 19 東京新聞)

駐インド大使に平林博氏

1月21日付で、駐インド大使に平林博氏が任命された。平林氏は1963年外務省に入り、経済協力局長などを経て'95年8月から内閣外政審議室長を務められた。東京都出身、57歳。

《パキスタン》

ネパール・シェルパ禁止

1998年から、パキスタン内でのネパール・シェルパの登山活動は一切禁止される模様。ただし、ネパール単一の登山隊としての活動は認められるようである。詳細は不明。また、連絡官や高所ポーター、ローカル・ポーターの保険料が従来の倍額になった。(情報提供: 日パトラベル)

新大統領決まる

新パキスタン大統領にムハマド・ラフィク・タルル氏(68歳)が選出された。(トピックス欄参照)

《ネパール》

アナトリー・ブクレエフ、アンナで遭難

ロシアの登山ガイド、アナトリー・ブクレエフ(39)とイタリア出身の登山ガイド、シモヌ・モロー(30)のコンビは、ネパールのアンナプルナI峰(8,091m)登山中の12月25日、崩壊した

トピックス

パキスタン大統領に選ばれた
ムハマド・ラフィック・タラル氏

31年間の裁判官経験があり、憲法学に詳しい学究肌。白いあごひげがトレードマークの常識人だが、国民の間では無名に近く、大統領候補として与党・パキスタン・イスラム教徒連盟（PML）内部でも予想外の人選だった。

背景には、シャリフ首相の強い意向があったとの見方が支配的だ。首相とは同じパンジャブ州の出身で、家族ぐるみで親交が深い。パンジャブ大で法律を学び、裁判官として法曹界へ。'91年に最高裁判事に就任。昨年3月に上院議員に選ばれ、政治家としてはわずか十ヶ月のキャリアで国家元首に上り詰めた。

指導力は未知数。しかし96年4月の憲法修正で大統領の国会解散権、首相解任権などが廃止され権限が大幅に縮小したことから、独自性を発揮する機会は少ないと見られている。しかも、レガリ前大統領がシャリフ首相と最高裁との対立に巻き込まれ辞任を強いられた事実とあわせ、野党の間では首相への権力集中を懸念する声強い。

趣味はイスラム法と宗教書の講読。夫人との間に3男1女。
(1. 3 読売新聞)

日本人初・イン・チベット

明治時代に日本人として初めてチベットの地を踏みながら34歳で行方不明となった、チベット旅行の知られざる先駆者がいる。島根県生まれの仏教徒、能海寛（のうみ・ゆたか）。彼が神戸を出発してから今年で百年になるのを記念、2月に遺稿集が約80年ぶりに五月書房（東京）から復刻される。

能海は1868年（明治元年）、島根県金城町の真宗大谷派の寺に生まれ、11歳で僧になった。恩師の影響で、仏教を学ぶためにはチベットのラサにある経典や写本を見なければならぬと決意、1998年に日本を出発した。

当時のチベットは中国・清朝の宗主権下にあり、

アイス・ブロックが誘発した雪崩に巻き込まれ、約250メートル流された。標高約5,900メートル地点をブクレエフが、そしてモローはブクレエフより数十メートル上部を登行中に雪崩に遭遇、モローは奇跡的に助かったものの、ブクレエフは行方不明となった。モローは半狂乱状態でしばらくブクレエフの名を呼びながら周囲を捜したが断念、6時間かけてベースキャンプに下降した。骨折はしていないものの、ロープによるやけどの悪化でカトマンズ市内の病院に入院している。

救出活動したネパール軍ヘリコプターのパイロットは、96年春のエヴェレストでの大惨事の時に、歴史に残る高度での救出劇を演じたマダン中佐で、再三の搜索を試みたが12月29日、悪天候のためカトマンズに引き返してきた。

ブクレエフは96年のスコット・フィッシャー隊の後97年インドネシア隊にもコーチとして参加、エヴェレストへの三度登頂を果たしていた。

(12. 30 カトマンズ・ポスト)

インフォメーション

第5回事故と環境対策研修会のお知らせ

日本ヒマラヤ協会主催の第5回事故と環境対策研修会が、下記の通りに開催される。

日時 4月5日（日） 9時～17時

会場 未定（但し都内を予定）

会費 3千円

内容 雪崩からいかに逃れるか／高所障害、クレバス転落、疲労凍死、落石、落雷、固定ロープ切断等の事故／テイクイン、テイクアウトの解説／事故処理の実際

問い合わせ・申込み

HAJ事務局まで

インド政府観光局日本語ホームページ開局

インド政府観光局が日本語のホームページを開局した。まだ制作中の部分もあるものの、インドに関する情報源としてはかなり有効と思われる。

アドレスは下記の通り。

<http://www.indotour.or.jp>

事実上の鎖国状態。治安が悪く、能海は東チベットまでは入れたが、ラサまでは到達できず、中国領に引き返した。

1901年、雲南省から3度目の挑戦でラサ入りを試みたまま音信不通となり、現在までその後の足取りは判っていない。

能海が旅先から日本に残した妻や恩師らに送った書簡や紀行文を中心とした遺稿集は、'17年に初めて出版された。

金城町在住の郷土史家で、全国の研究者らでつくる「能海寛研究会」の事務局長隅田正三さんは「能海は仏典を自分の国の言葉で翻訳していたチベット文化を高く評価していた。これを機にぜひ多くの人に能海という先駆者がいたことや、彼の生きざまを知って欲しい」と話している。

(1. 6 東京新聞)

象徴ドームに黄信号

インド中部、アグラのヤムナー川沿いに優美な姿を見せるタージ・マハル廟。ムガル帝国以来の歴史を今に伝えるインドの象徴ドームが、黄色に変色し始めている。

約160キロ西にある原油精製工場から排出される煙に含まれる窒素酸化物が主な原因だ。「酸化窒素は人体だけでなく、建設資材、大理石に大きな影響を与える。大理石は変質し、「時間がたてば壁は剥落し始めるだろう」と、現地の専門家、チトニス博士は指摘する。

人口1100人以上がひしめく西ベンガル州カルカッタの状況もひどい。市上空はばい煙で灰色にかすみ、産業廃棄物の不法投棄でヒンズー教の聖地カーリー寺院周辺は悪臭が絶えない。科学環境センターの調べでは、有害ガスの排出量は世界保健機関(WHO)基準値の3倍を超えるという。

北部エヴェレストのごみ公害から主都デリーの工業排煙まで、都市化と環境汚染がぶつかるケースは至る所に現れている。背景に旧来の衛生観念や習慣などインドの文化的伝統があるだけに、解決は容易ではないようだ。(1. 27 東京新聞)

シアチェン氷河に公衆電話！

インド政府は11月4日、標高6,000mという世界で最も高い地点に公衆電話ボックスを設置したと発表した。

ライター共同によると、設置場所はカシミールのカラコルム山脈にあるシアチェン氷河である。現地はパキスタンとの国境紛争が起きている地域で、数百人のインド軍部隊が、長さおよそ80kmに及ぶ氷河に沿ってざんごうを掘り、パキスタン軍との間で砲火を交えている。

今回の公衆電話の設置についてインド国防省は、「紛争地で、しかも気候条件の厳しいシアチェンに駐留する兵士たちは、これで家族と電話で話せるようになり、士気も大いに高まるだろう」と話している。

この氷河地域の冬の気温は氷点下55度まで下がり、最も暖かい季節でも氷点下15度ぐらいだという。(資料提供：TBS大沢悠里のゆうゆうワイド11月5日放送分)

書評

ウルタルⅡ峰 一さくっと登ってきます

未踏のウルタルⅡ峰に二人で挑み、見事初登頂に成功した山崎彰人／松岡清司ペアの記録。下山中山崎が死亡し、松岡もまた翌年(97年)すぐ近くにあるレディース・フィンガーに単独で挑戦中雪崩にあい短い命を断った。

ウルタルⅡの報告は、生前の松岡によって書かれており、貴重な記録となった。松岡の報告は、若者らしい素直な気持ちで書かれていて読む側に感動を与える。また、アルパイン・スタイルによる成功であったが、先蹤者によって残置された支点や懸垂氷河が崩落したことによってルートが見出されたなど幾つかの幸運も重なっていたことが報告されている。

アルパイン・スタイルやこの登山の成果、軽量化などについて松岡の私見が述べられているが、どの項目も率直に記されていて、これからヒマラヤを目指す若者にとっては大変参考になるだろう。関係者による追悼も数多く納められている。

若き松岡の最後の文章は「死ぬかもしれないか

らといってやりたいことをやらないのなら、生きている意味はない。だから僕はこれからも登り続ける。」と結ばれている。山崎を主体に編まれた本であるが、松岡の生きざまをも知ることができる。多くの人に読んでもらいたい好書。

A 5判 211頁(カラー4P) 1500円

〒500 岐阜市藪田中2-9-8 小木曾方

ウルタルII峰編集事務局

☎& F 058-275-2887

遥かなるヌン峰

96年夏に栃木県南地区山岳協議会が派遣した登山隊の報告書。北西稜をルートにとったが頂稜の下で登頂を断念した。ソーラー・パネル使用、ヒマラヤの水質分析、乾電池の低温減圧下での持続時間試験などの報告がある。

B 5判 99頁(カラー8P)

〒328 栃木市河合町4-3 塚田宏司方

30周年資金協力者ご芳名

10口(柴田金之助、遠藤登) 7口(出口當) 5口(酒井国光、山形海外交流協会) 3口(金子勇一、天宮央貴、中川裕) 2口(石川一郎、宮川裕子、江本嘉伸、稲垣公平) 1口(小室豊、三浦敏弘、井上重治、志小田美弘、松本征夫、大崎正信、西田均、江崎幸一、野口信彦、古関正雄・千代子、脇田康治、杉林仁止、中島俊弥、上杉純夫、村井龍一、笠松幸衛、渋谷眞一、弥野光一、大宮求、那須宗一、石原賢二、斎藤光明・君子、平泉宣、綿貫剛、山本篤、岩崎洋、林雅樹) 0.8口(谷口雅朗) 総計247名5,504,000円(1988.1.28 現在)

東京集会のお知らせ

日時 2月23日(月)午後7時

会費千円

場所 HA J ルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分)
又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

山の情報誌「岳人」



毎月15日発売 (日・祝日の場合は前日) 定価700円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。

郵送料は124円です。年間購読料は8,900円で送料は当社負担です。

お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

98年

特集

- | | |
|-------|----------------|
| ★ 1月号 | ぼくの好きな雪の山小屋で |
| 2月号 | 粉雪わけて爽快山スキー |
| ★ 3月号 | 駅から登るとっておきの山 |
| 4月号 | 新緑と残雪を求めて5月の山 |
| ★ 5月号 | 山の本、名作をめぐる春山紀行 |
| 6月号 | 高層湿原、もう一つの尾瀬へ |
| ★ 7月号 | 夏は北海道の花と溪流へ |
| 8月号 | 真夏に涼を求めて、高原へ |
| 9月号 | 初秋の単独行の山歩き |
| ★10月号 | 上信越の紅葉をさぐる |
| 11月号 | 名峰を訪ね、冬枯れの温泉へ |
| 12月号 | 冬山入門、心構えと特選コース |

(★は特大号となります)

東京新聞出版局(中日新聞)

〒108-8010 東京都港区港南2-3-13 TEL 03-3740-2674
全国の書店で発売中/中日新聞販売店でも取りつぎます

トータル獲得標高1997

山森欣一

1997年日本ヒマラヤ登山界は、八千メートル峰の頂上に延べ62名を送り込んだ。この内22名は群馬勢である。ネパール、中国がローツェ2名、ダウラギリIに2名、マナスル8名、チョー・オユー3名なのに対して残る47名がパキスタンである。K2に7名、ナンガ・パルバット7名、ブロード・ピーク8名、G I 6名、G II 19名であった。日本初の八千メートル登頂は、56年のマナスルであったが、その後21年間、79年までの登頂者数は僅か18名であった。それが81年に年間延登頂者数が20名を越し、90年には30名となった。そして、95年、96年は40名を越し、97年は遂に60名という大量登頂を実現してしまったのである。だが、この内、新ルートに挑んだ隊は、JAC東海のK2西稜～西壁の1隊だけであった。

今、日本の登山界は混沌としている。その一つは、ヒマラヤ登山における八千メートル峰への一極集中である。このように特定の山の特定のシーズン（登山適期）に登山者が集中することに対して、登山界全体が危機感をもたなければならない時期がきているのではないか。限られた自然の中に登山者の欲望に充分応えてくれる山々が沢山あることを知るべきであろう。もう一つは、登山観の争いである。代表的な争点は多分「固定ロープ」の多用に対することであろう。一方に現状を憂いアルパイン・スタイルによる登山を出張する人がいて、片方には「楽しみと安全」のために「固定ロープを使って何が悪い」と主張する人達がいる。軍配を上げる立場にはないが、今の時代の登山者が「高みへの自己抑制」をしなければ、「次の世代が、自ら（現在の登山者）が真摯に求めた登攀という行為」を実践する場を失うおそれがあることだけは確かである。

20000 mを超えた男たちの概要

1997年12月31日現在

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
1	×山田昇 (115,804) 14座 1950.2.生	a.ダウラギリI	8,167	N	1978.10.21	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀	1
		b.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.5.9	H A J	南西面		
		c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	H A J	南西稜	初登頂	
		d.ダウラギリI	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
		e.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西面	日本人初登	
		f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	カモシカ同人	南東稜	冬期第三登	
		g.マモストーン・カンリ	7,526	I	1984.9.13	H A J	北東稜	初登頂	
		h.K2	8,611	P	1985.7.24	H A J	南東稜	O ₂ レス	
		i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	O ₂ レス	
		j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北東面	冬期第二登	
		k.アンナプルナI	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁	冬期初登攀	
		l.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北～南	初縦断	
		m.シシャバンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		n.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H A J	北西面	ハット・トリック	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
2	近藤和美 (110,232m) 15座 1941.11.生 (56才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1984.7.31	九山同人	ツェト		2
		b.レーニン	7,134	S	1984.8.6	九山同人	ラズジ		
		c.コムニズム	7,495	S	1986.8.3	九山同人	ポロド		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1986.8.9	九山同人	ツェト		
		e.レーニン	7,134	S	1986.8.15	九山同人	ラズジ		
		f.レーニン	7,134	S	1988.8.14	労山	ラズジ		
		g.ハン・テングリ	7,010	S	1989.8.6	労山	ソロマ		
		h.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労山	ボグレ		
		i.ボベータ	7,439	S	1991.8.14	労山	ヴァジ		
		j.チョー・オユー	8,201	C	1992.9.20	カトマンズクラブ	北西面	50才	
		k.シシャバンマC	8,008	C	1994.5.18	労山	北東稜	52才	
		l.ヌン	7,135	I	1995.8.16	労山	北西稜		
		m.ダウラギリI	8,167	N	1995.10.6	労山	北東稜	53才	
		n.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1996.8.14	労山	ツェト		
		o.リスム	7,050	C	1997.5.10	労山		初登頂	
3	田辺治 (93,383m) 12座 1961.1.生 (36才)	a.ラブチェ・カン	7,367	C	1987.10.26	H A J	西稜	初登頂	3
		b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1990.7.26	イエティ同人	南西稜		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東海山岳会	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1991.7.29	東海山岳会	ポロド		
		e.レーニン	7,134	S	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜		
		g.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁	ハット・トリック	
		i.ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.7	信州大学	西稜	初登頂	
		j.マカルー	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下		
		k.ラトナ・チュリ	7,035	N	1996.10.14	信州大学	西稜	初登頂	
		i.K2	8,611	P	1997.7.19	J A C 東海	西壁に西稜から初登		
		4	尾形好雄 (85,583m) 11座 1948.7.生 (49才)	a.ヒマルチュリW	7,540	N	1978.5.7	雪と岩の会	
b.ヤルン・カン	8,505			N	1981.5.9	H A J	南東面	日本人初登	
c.マモストーン・カンリ	7,526			I	1984.9.15	H A J	北東稜	初登頂	
d.ギャラ・ベリ	7,294			C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂	
e.リモI	7,385			I	1988.7.28	H A J	南壁	初登頂	
f.ピラミッド・ピーク	7,123			I	1993.4.24	H A J	北東稜	初登頂	
g.チョー・オユー	8,201			C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
h.サガルマータ	8,848			N	1993.12.22	群馬県山岳連盟	南西壁	冬期初登攀	
i.サトバント	7,075			I	1995.9.13	雪と岩の会	北稜		
j.ガッシャーブルムII	8,035			P	1997.7.8	群馬県山岳連盟	南西稜		
k.ブロード・ピークM	8,051			P	1997.7.20	群馬県山岳連盟	西稜		
5	小西浩文 (77,274m) 10座 1962.3.生	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.29	高山研究所	ツェト	20歳	7
		b.コムニズム	7,495	S	1982.8.5	高山研究所	ポロド		
		c.シシャバンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
		d.レーニン	7,134	S	1988.8.14	イースト	ラズジ		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(35才)	e.ハン・テングリ f.ブロード・ピークM g.ガッシャーブルムII h.チョー・オユー i.ダウラギリI j.ガッシャーブルムI	7,010 8,051 8,035 8,201 8,167 8,068	S P P C N P	1989.8.6 1991.7.30 1993.7.31 1995.5.9 1997.5.31 1997.7.16	群馬ミヤマ パイン/スキー パインニアソブ ガイア ガイア JAFMA	ソロマ 西稜 南西稜 北西面 北東稜 北稜		
6	岩崎洋 (67,046m) 9座 1960.2.生 (37才)	a.マモストン・カンリ b.カルジャン c.ピラミッド・ピーク d.ティリッチ・ミール e.サトバント f.ディラン g.ムスターグ・アタ h.ブロード・ピークM i.ムスターグ・アタ	7,526 7,216 7,123 7,706 7,075 7,257 7,546 8,051 7,546	I C I P I P C P C	1984.9.15 1986.10.14 1993.4.24 1995.7.7 1995.9.13 1996.7.24 1996.9.14 1997.7.7 1997.9.29	H A J H A J H A J バーバリアン 雪と岩の会 バーバリアン 浪 群馬県山岳連盟	北東稜 西壁 北東稜 西稜 北稜 西稜 西稜 西稜 西稜	初登頂 初登頂 初登頂 初登攀	14
7	品川幸彦 (66,842m) 1968.2.生 9座 (29才)	a.レーニン b.ハン・テングリ c.コルジェネフスカヤ d.コムニズム e.ハン・テングリ f.ポベータ g.ムスターグ・アタ h.ガッシャーブルムI i.ガッシャーブルムII	7,134 7,010 7,105 7,495 7,010 7,439 7,546 8,068 8,035	S S S S S S C P P	1992.8.12 1993.8.4 1994.7.28 1994.8.4 1995.7.30 1995.8.10 1996.8.13 1997.7.7 1997.7.14	 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	ラズジ ソロマ ツェト ボロド ソロマ ヴァジ 西稜 北稜 南西稜		16
8	山本篤 (65,105m) 8座 1962.10.生 (35才)	a.ラカポシE b.シシャバンマM c.チョー・オユー d.サガルマータ e.ナムチャ・バルワ f.マカルー g.K2 h.マナスル	7,010 8,027 8,201 8,848 7,782 8,463 8,611 8,163	P C C N C C P N	1987.7.3 1988.10.24 1988.11.6 1989.10.13 1992.10.30 1995.5.21 1996.8.14 1997.10.8	明治大学 H A J H A J カトマンズクラブ J A C J A C J A C 明治大学	北稜 北東稜 北西面 南東稜 南壁 東稜下 南南東稜 北東面	初登頂	8
9	重廣恒夫 (63,435m) 8座 1947.10.生 (49才)	a.ナンダデヴィE b.K2 c.ラトックI d.チョモランマ e.カンチェンジュンガC f.マッシャーブルムE g.ブロード・ピークM h.ナイプン	7,434 8,611 7,145 8,848 8,482 7,821 8,051 7,034	I P P C N P P C	1976.6.9 1977.8.8 1979.7.19 1980.5.10 1984.5.18 1985.7.23 1985.8.12 1991.11.25	J A C J M A 京都カラコルムC J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム J A C	南稜 南東稜 南稜 北壁 南稜 北西壁 西稜 南西稜	第二登 初登頂 初登攀 Sから縦走 初登攀	5

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*	
10	江塚進介 (62,937m) 8座 1961.4.生 (36才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東海山岳会	ツェト	ハットトリック	19	
		b.コムニズム	7,495	S	1991.7.29	東海山岳会	ボロド			
		c.レーニン	7,134	S	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ			
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜			
		e.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面			
		f.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁			
		g.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北稜			
		h.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜			
11	田部井淳子 (61,375m) 8座 1939.9.生 (58才)	a.アンナプルナIII	7,555	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南西面	女性初登頂	6	
		b.サガルマータ	8,848	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南東稜			
		c.シシャパンマM	8,027	C	1981.4.30	女子登攀クラブ	北東稜			
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.28	女子登攀クラブ	ツェト			
		e.コムニズム	7,495	S	1985.8.7	女子登攀クラブ	ボロド			
		f.レーニン	7,134	S	1985.8.15	女子登攀クラブ	ラズジ			
		g.ハン・テングリ	7,010	S	1994.8.12		ソロマ			
		h.チャー・オユー	8,201	S	1996.9.20	国際公募隊	北西面			57歳
12	名塚秀二 (59,197m) 7座 1954.11.生 (43才)	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	初登攀	23	
		b.チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁			
		c.カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	H A J	北東稜			
		d.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面			
		e.サガルマータ	8,848	N	1993.12.18	群馬県山岳連盟	南西壁			冬期初登攀
		f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北稜			
		g.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜			
13	三谷統一郎 (56,966m) 7座 1958.3.生 (39才)	a.アンナプルナ・ダクシン	7,219	N	1978.10.16	明治大学	南西稜	初登攀	17	
		b.ダウラギリI	8,167	N	1982.10.17	高松労山	北東稜			
		c.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J A C	南西面			
		d.チャー・オユー	8,201	N	1985.10.3	カトマンズクラブ	北西面			日本人初登
		e.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜			
		f.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南壁			初登頂
		g.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面			
14	山野井妙子 (54,870m) 7座 1956.3.生 (41才)	a.コムニズム	7,495	S	1985.7.28	高山研究所	ボロド	O ₂ レス	9	
		b.レーニン	7,134	S	1985.8.6	高山研究所	ラズジ			
		c.コムニズム	7,495	S	1986.8.2	高山研究所	ボロド			
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	バイネ/スキー	西面			
		e.マカルー	8,463	N	1991.10.7	ベルニナ山岳会	北西稜			
		f.ガッシャーブルムII	8,035	P	1993.7.31	バイネニアソブ	南西稜			
		g.チャー・オユー	8,201	C	1994.9.25		南西壁			A P
15	山本宗彦 (54,818m) 7座 1959.12.生	a.レーニン	7,134	S	1983.7.27	J A C	ラズジ	初登攀	10	
		b.コムニズム	7,495	S	1983.8.6	J A C	ボロド			
		c.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁			
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	関西カラコルム	西稜			

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(38才)	e.ラカボシE f.チョモランマ g.マカルー	7,010 8,848 8,463	P C C	1987.7.3 1988.5.5 1995.5.22	明治大学 J A C J A C	北稜 北稜 東稜下		
16	遠藤晴行 (54,811m) 7座 1957.2.生 (40才)	a.サガルマータ b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.レーニン e.ナンガ・バルバット f.ガッシャープルムI g.ガッシャープルムII	8,848 7,105 7,495 7,134 8,126 8,068 8,035	N S S S P P P	1983.10.8 1985.7.20 1985.7.28 1985.8.6 1988.7.12 1989.7.12 1990.7.2	イエティ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 イエティ同人	南東稜 ツェト ボロド ラズジ 西面 北稜 南西稜	O ₂ レス	11
17	高橋 堅 (51,553m) 7座 1958.8.生 (39才)	a.ネムジュン b.ガッシャープルムII c.コルジェネフスカヤ d.コムニズム e.レーニン f.ディラン g.ウルタルII	7,139 8,035 7,105 7,495 7,134 7,257 7,388	N P S S S P P	1983.10.27 1985.7.28 1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12 1996.7.31	弘前大学 横浜蝸牛山岳会 弘前大学 弘前大学 弘前大学 弘前大学 カトマンズC	東稜 南西稜 ツェト ボロド ラズジ 北稜 南稜	初登頂 初登攀 初登攀	13
18	尾崎 隆 (51,012m) 6座 1952.9.生 (45才)	a.ブロード・ピークM b.チョモランマ c.マナスル d.ローツェ e.サガルマータ f.カンチェンジュンガM	8,051 8,848 8,163 8,516 8,848 8,586	P C N N N N	1977.8.8 1980.5.10 1981.10.12 1983.10.9 1983.12.16 1984.5.19	愛知学院大学 J A C イエティ同人 カモシカ同人 カモシカ同人 J A C	西稜 北壁 北東面 西面 南東稜 南西面	第二登 初登攀 日本人初登 冬期第三登	15
19	宮崎 勉 (47,796m) 6座 1947.11.生 (50才)	a.ダウラギリIV b.ダウラギリI c.ローツェ d.カルジャン e.チャー・オユー f.ガッシャープルムII	7,661 8,167 8,516 7,216 8,201 8,035	N N N C C P	1975.10.21 1978.10.19 1983.10.10 1986.10.16 1993.10.12 1997.7.14	カモシカ同人 群馬県山岳連盟 カモシカ同人 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南面 南東稜 西面 西面 北西面 南西稜	初登攀 初登頂	29
20	今村裕隆 (47,795m) 6座 1959.4.生 (38才)	a.ギャラ・ベリ b.チョゴリ c.カンチェンジュンガM d.マカルー e.ヌン f.ティリッチ・ミール	7,294 8,611 8,586 8,463 7,135 7,706	C C I N I P	1986.10.31 1990.8.9 1991.5.24 1991.10.5 1992.8.13 1995.7.7	H A J 横浜山岳協会 H A J ベルニナ山岳会 H A J バーバリアン	南稜 北西壁 北東稜 北西稜 西稜 西稜	初登頂 初登攀	18
21	後藤文明 (47,371m) 6座 1965.5.生 (32才)	a.プモ・リ b.サトバント c.チャー・オユー d.サガルマータ e.ガッシャープルムII f.ブロード・ピークM	7,161 7,075 8,201 8,848 8,035 8,051	N I C C P P	1987.10.13 1990.8.10 1993.10.8 1993.12.18 1997.7.8 1997.7.20	境町山の会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南稜 北稜 北西面 南西壁 南西稜 西稜	冬期初登攀	44

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
22	高橋和之 (46,112m) 6座 1943.1.生 (54才)	a.ダウラギリIV	7,661	N	1975.10.19	カモシカ同人	南面	バラバント	20
		b.ローツェ	8,516	N	1983.10.11	カモシカ同人	西面		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1985.7.28	高山研究所	ポロド		
		e.レーニン	7,134	S	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
		f.チャー・オユー	8,201	C	1987.9.21	カモシカ同人	北西面		
23	林雅樹 (44,251m) 6座 1963.11.生 (34才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1990.7.24	京都クライマーズC	ツェト		21
		b.コムニズム	7,495	S	1990.8.1	京都クライマーズC	ポロド		
		c.レーニン	7,134	S	1990.8.7	京都クライマーズC	ラズジ		
		d.ハン・テングリ	7,010	S	1994.8.11	京都クライマーズC	ソロマ		
		e.ポベータ	7,439	S	1994.8.22	京都クライマーズC	ヴァジ		
		f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1996.7.30	京都クライマーズC	北稜		
24	原真 (43,952m) 6座 1936.8.生 (61才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1976.8.7	J A C 東海	ツェト		22
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.31	高山研究所	ツェト		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
		e.コムニズム	7,495	S	1985.7.29	高山研究所	ポロド		
		f.レーニン	7,134	S	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
25	×加藤保男 (42,523m) 5座 1949.3.生	a.サガルマータ	8,848	N	1973.10.26	R C C II	南東稜	秋期初登頂	24
		b.ナンダデヴィM	7,816	I	1976.6.15	J A C	南稜	日本人初登	
		c.チョモランマ	8,848	C	1980.5.3	J A C	北稜		
		d.マナスル	8,163	N	1981.10.14	イエティ同人	北東面		
		e.サガルマータ	8,848	N	1982.12.27	イエティ同人	南東稜	冬期第二登	
26	×三枝照雄 (42,015m) 5座 1957.10.生	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	冬期初登攀	25
		b.アンナプルナI	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁		
		c.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北東稜		
		d.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		e.チャー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H A J	北西面		
27	石川富康 (41,387m) 5座 1936.11.生 (61才)	a.チャー・オユー	8,201	C	1991.9.28	シルバートートル	北西面	54才	26
		b.サガルマータ	8,848	N	1994.5.13	愛知学院大学	南稜	57才	
		c.ダウラギリI	8,167	N	1994.10.1	シルバートートル	北東稜	57才	
		d.シシャパンマC	8,008	C	1995.9.26	Y M S	北東稜	58才	
		e.マナスル	8,163	N	1996.9.27	登稜会	北東面	59才	
28	星野龍史 (40,540m) 5座 1967.11.生 (30才)	a.チャー・オユー	8,201	P	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面 南西面 北稜 南西稜	冬期初登攀	75
		b.サガルマータ	8,848	N	1993.12.22	群馬県山岳連盟			
		c.ウルタルII	7,388	C	1996.7.31	カトマンズC群			
		d.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟			
		e.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟			
29	谷川太郎 (40,510m) 5座	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.12	東京農業大学	西稜		27
		b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1993.7.22	東京農業大学	南西稜		
		c.マカルー	8,463	C	1995.5.22	J A C	東稜下		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	1967.6. 生 (30才)	d.ジンミゲラ・チュリ e.K2	7,350 8,611	N P	1995.10.16 1996.8.12	東京農業大学 J A C	西稜 南南東	初登攀	
30	谷口 守 (39,800m) 5 座 1948.12. 生 (49才)	a.ナンガ・バルバット b.ブロード・ピークM c.チョー・オユー d.ガッシャーブルム I e.バサン・ラム・チュリ	8,126 8,051 8,201 8,068 7,354	P P C P N	1983.7.31 1988.8.13 1992.9.20 1994.8.12 1996.10.19	富山県山岳連盟 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ 富山県山岳連盟 大阪山の会	西面 西稜 北西面 北稜 西稜	日本人初登	28
31	×佐藤正倫 (39,161m) 5 座 1963.8. 生	a.7,167m峰 b.ナンガ・バルバット c.ブロード・ピークM d.ナムチャ・バルワ e.ガッシャーブルム II	7,167 8,126 8,051 7,782 8,035	C P P C P	1986.8.16 1990.7.24 1991.7.12 1992.10.30 1993.7.22	東京農業大学 バイネニアソブ 東京農業大学 J A C 東京農業大学	南東面 西面 西稜 南壁 南西稜	初登頂 初登頂	30
32	和田城志 (39,034m) 5 座 1949.10. 生 (48才)	a.гент II b.ランタン・リルン c.カンチェンジュンガM d.マッシャーブルム E e.ブロード・ピークM	7,342 7,234 8,586 7,821 8,051	P N N P P	1978.7.15 1978.10.24 1984.5.20 1985.7.23 1985.8.12	関西学生岳連 大阪市立大学 J A C 関西カラコルム 関西カラコルム	北面 南東面 南西面 北西壁 西稜	初登頂 初登攀	31
33	東條真百合 (37,936m) 5 座 1955.6. 生 (42才)	a.コルジュネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ガッシャーブルム II e.ダウラギリ I	7,105 7,495 7,134 8,035 8,167	S S S P N	1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1988.8.8 1990.10.9	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ	ツェト ボロド ラズジ 南西稜 北東稜		32
34	吉村哲明 (37,042m) 5 座 1961.7. 生 (36才)	a.コルジュネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ディラン e.ブロード・ピークM	7,105 7,495 7,134 7,257 8,051	S S S P P	1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12 1991.7.30	弘前大学 弘前大学 弘前大学 弘前大学 バイネ/スキー	ツェト ボロド ラズジ 北稜 西稜	初登攀	33
35	石川龍彦 (36,486m) 1952.2. 生 (45才)	a.レーニン b.コルジュネフスカヤ c.コムニズム d.ムスターグ・アタ e.ニンテン・カンサ	7,134 7,105 7,495 7,546 7,206	S S S C C	1983.8.2 1985.7.29 1985.8.6 1996.8.17 1997.8.18	関西 H A J H A J	ラズジ ツェト ボロド 西稜 西稜		58
36	松本正城 (36,362m) 5 座 1948.11. 生 (49才)	a.クン b.ヌン c.ガッシャーブルム II d.コルジュネフスカヤ e.ハン・テングリ	7,077 7,135 8,035 7,105 7,010	I I P S S	1981.8.27 1982.8.18 1985.7.28 1988.7.30 1989.8.15	R C C II 東京山岳協会 横浜蝸牛山岳会	東稜 北西稜 南西稜 南東面 ソロマ		34
37	坂原忠清 (35,902m) 5 座 1944.10. 生	a.ムスターグ・アタN b.ヌン c.レーニン d.ハン・テングリ	7,184 7,135 7,134 7,010	C I S S	1981.8.7 1982.8.15 1988.8.17 1991.8.10	スピダーニェ スピダーニェ スピダーニェ 日本教員	北面 西稜 ラズジ ボグレ	初登頂	35

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(53才)	e.ボベータ	7,439	S	1986.8.3	日本教員	ヴァジ		
38	山中芳樹 (35,819m) 5座 1950.9.生 (47才)	a.コムニズム b.コルジュネフスカヤ c.レーニン d.ハン・テングリ e.サトバント	7,495 7,105 7,134 7,010 7,075	S S S S I	1986.8.3 1986.8.9 1986.8.15 1989.8.15 1994.9.24	N C P " " 労山 労山	ボロド ツェト ラズジ ソロマ 北稜		36
39	川村晴一 (33,755m) 1947.12.生 (50才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ d.サガルマータ	7,710 8,586 8,611 8,848	N N C N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.15 1983.10.8	山学同志会 山学同志会 J M A 山学同志会	北壁 北壁 北稜 南東稜	初登攀 "O ₂ レス " O ₂ レス	37
40	八木原 圀 明 (33,215m) 1946.11.生 (51才)	a.ダウラギリIV b.ヤルン・カン c.サガルマータ d.チャー・オユウ	7,661 8,505 8,848 8,201	N N N C	1975.10.21 1981.5.9 1985.10.30 1993.10.12	カモシカ同人 H A J 植村直己物語 群馬県山岳連盟	南面 南東面 南東稜 北西面	日本人初登	38
41	戸高雅史 (32,823m) 1965.4.生 (32才)	a.ナンガ・パルバット b.ガッシャーブルムII c.ブロード・ピークM d.K2	8,126 8,035 8,051 8,611	P P P P	1990.8.18 1993.7.31 1995.7.19 1996.7.29	川崎教員 バイネニアソブ F O S F O S	南西稜 南西稜 西稜 南東稜	縦走 単独	39
42	吉田文江 (32,454m) 1955.10.生 (42才)	a.ガッシャーブルムII b.ダウラギリI c.チャー・オユウ d.ブロード・ピークM	8,035 8,167 8,201 8,051	P N C P	1988.8.8 1990.10.9 1993.10.12 1997.7.16	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南西稜 北東稜 北西面 西稜		76
43	遠藤由加 (32,430m) 1966.1.生 (31才)	a.ナンガ・パルバット b.ガッシャーブルムI c.ガッシャーブルムII d.チャー・オユウ	8,126 8,068 8,035 8,201	P P P C	1988.7.12 1989.7.12 1990.7.26 1994.9.25	高山研究所 高山研究所 イエティ同人	西面 北稜 南西稜 南西壁	A P	40
44	大谷映芳 (32,138m) 1947.4.生 (50才)	a.ラカボシ b.K2 c.クーラ・カンリI d.チャー・オユウ	7,788 8,611 7,538 8,201	P P C C	1979.8.2 1981.8.6 1986.4.21 1987.9.21	早稲田大学 早稲田大学 神戸大学 カモシカ同人	北稜 西稜 西稜 北西面	初登攀 " 初登頂	41
45	×小西政継 (32,048m) 1938.11.生	a.クンバカルナ b.ダウラギリI c.シシャパンマC e.マナスル	7,710 8,167 8,008 8,163	N N C N	1976.5.12 1994.10.1 1995.9.26 1996.9.30	山学同志会 シルバートートル Y M C 登稜会	北壁 北東稜 北東稜 北東面	初登攀 55才 56才 57才	42
46	北村俊之 (31,640m) 1962.8. (35才)	a.ブロード・ピークM b.バサン・ラム・チュリ c.ダウラギリI d.ガッシャーブルムI	8,051 7,354 8,167 8,068	P N N P	1995.7.19 1996.10.19 1997.5.31 1997.7.16	F O S 大阪山の会 ガイヤ J A F M A	西稜 西稜 北東稜 北稜	縦走	
47	×斎藤安平 (31,431m) 1953.1.生	a.ダウラギリI b.ガウリシャンカールS c.マナスル	8,167 7,010 8,163	N N N	1982.10.18 1984.10.19 1985.12.14	カモシカ同人 J A C・東海 カモシカ同人	北西稜 南東稜 北東面	初登攀 初登攀 冬期第二登	43

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
		d. アンナプルナ I	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁	冬期初登攀	
48	×二上純一 (31,166m) 1951.12. 生	a. シア・カンリ b. バルトロ・カンリ III c. ムスターグ・アタ d. チョモランマ	7,422 7,350 7,546 8,848	P P C C	1979. 7. 30 1979. 8. 4 1981. 6. 30 1991. 5. 27	京都カラコルム 京都カラコルム 京都カラコルム 貫田 / 二上	南西面 北東面 西稜 北稜	帰路死亡	45
49	重野太肚二 (31,100m) 1943. 4. 生 (54才)	a. プモ・リ b. ダウラギリ I c. チョゴリ d. プモ・リ	7,161 8,167 8,611 7,161	N N C N	1973. 5. 1 1978. 5. 8 1982. 8. 15 1989. 4. 21	登攀クラブ イエティ同人 J M A チーム・ブモリ	南稜 南稜 北稜 南稜	初登攀 〃O ₂ レス	46
50	上野幸人 (23,863m) 1954. 1. 生 (43才)	a. コムニズム b. ダウラギリ I c. チョー・オユー d. リスム	7,495 8,167 8,201 7,050	S N C C	1986. 8. 2 1994. 9. 27 1995. 9. 29 1997. 5. 10	高山研究所 秋田 労山	ボロド 北東稜 北西面	初登頂	83
51	鈴木孝雄 (30,865m) 1938. 5. 生 (59才)	a. レーニン b. コムニズム c. ガッシャーブルム II d. チョー・オユー	7,134 7,495 8,035 8,201	S S P C	1984. 8. 5 1986. 8. 3 1990. 7. 26 1992. 9. 20	青田 丸山同人 イエティ同人 カトマンズクラブ	ラズジ ボロド 南西稜 北西面	52才 54才	47
52	富田雅昭 (30,771m) 1956. 6. 生 (41才)	a. マナスル b. コルジュネフスカヤ c. コムニズム d. シシャバンマ C	8,163 7,105 7,495 8,008	N S S C	1981.10.14 1982. 7. 31 1982. 8. 5 1982.10.12	イエティ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所	北東面 ツェト ボロド 北東稜		48
53	飛田和夫 (30,377m) 1946. 1. 生 (51才)	a. トリスル I b. ヤルン・カン c. ムスターグ・アタ d. ニンチン・カンサ	7,120 8,505 7,546 7,206	I N C C	1978. 9. 28 1981. 5. 5 1994. 8. 18 1997. 8. 17	H A J H A J H A J H A J	南稜 南東面 西稜 西稜	初登攀 日本人初登	93
54	野沢井歩 (30,169m) 1964. 8. 生 (33才)	a. ヌン b. ダウラギリ I c. プモ・リ d. ティリッチ・ミール	7,135 8,167 7,161 7,706	I N N P	1992. 8. 13 1993.10. 6 1994.10.21 1995. 7. 7	H A J ベルニナ山岳会 バーバリアン バーバリアン	西稜 北東稜 南稜 西稜		49
55	青田浩 (30,168m) 1958. 1. 生 (39才)	a. アンナプルナ I b. レーニン c. プモ・リ d. ナムチャ・バルワ	8,091 7,134 7,161 7,782	N R N C	1981.10.29 1984. 8. 2 1986.12. 5 1992.10.30	イエティ同人 カモシカ同人 J A C	南壁 ラズジ 北東稜 南面	初登攀 初登頂	50
56	千葉孝義 (30,027m) 1945. 9. 生 (52才)	a. ダウラギリ II b. シシャバンマ C c. レーニン d. レーニン	7,751 8,008 7,134 7,134	N C S S	1979.10. 8 1982.10.12 1983. 7. 29 1985. 8. 6	カモシカ同人 高山研究所 J A C 高山研究所	II・III・V峰 北東稜 ラズジ ラズジ	縦走	51
57	保坂昭憲 (30,012m) 1948. 2. 生 (49才)	a. カンチェンジュンガ M b. ヌン c. カルジャン d. サトバント	8,586 7,135 7,216 7,075	N I C I	1981. 9. 9 1983. 9. 14 1986.10.16 1990. 8. 10	H A J こまくさ山岳会 H A J H A J	南西面 西稜 西壁 北稜	初登頂	52

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*	
58	早川 晃生 (29,941m) 1956.7. 生 (41才)	a.ユクシン・ガルダンサール	7,530	P	1984.7.23	東洋大学	南西面		53	
		b.ヌン	7,135	I	1986.10.3	東洋大学	西稜			
		c.チャー・オユー	8,201	C	1987.9.20	カモシカ同人	北西面			
		d.サトバント	7,075	I	1990.6.12	ワニ眼クラブ	北稜			
59	金沢 健 (29,935m) 1945.10. 生 (52才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	カトマンズクラブ	ツェト		54	
		b.コムニズム	7,495	S	1988.7.30	カトマンズクラブ	ボロド			
		c.レーニン	7,134	S	1988.8.7	カトマンズクラブ	ラズジ			
		d.チャー・オユー	8,201	C	1992.9.21	カトマンズクラブ	北西面			
60	柳沢 伸子 (29,769m) 1950.10. 生 (47才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.28	女子登攀クラブ	ツェト		55	
		b.コムニズム	7,495	S	1985.8.7	女子登攀クラブ	ボロド			
		c.レーニン	7,134	S	1985.8.15	女子登攀クラブ	ラズジ			
		d.ガッシャーブルムII	8,035	P	1988.8.8	女子登攀クラブ	南西稜			
61	古関 正雄 (29,767m) 1961.3. 生 (36才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.27	横浜鍋牛山岳会	ツェト		106	
		b.ヌン	7,135	I	1992.8.15	H A J	西稜			
		c.ダウラギリI	8,167	N	1993.10.6	ベルニナ山岳会	北東稜			
		d.スキルブルム	7,360	P	1997.8.17	神奈川ヒマラヤ	南西稜			
62	高橋 純一 (29,486m) 1948.11. 生 (49才)	a.コムニズム	7,495	S	1977.8.8	H A J	ボロド		56	
		b.シア・カンリ	7,422	P	1979.7.30	京都カラコルムC	南西面			
		c.ムスターグ・アタN	7,184	C	1981.8.14	スピダーニエ	北面			
		d.リモI	7,385	I	1988.7.30	H A J	南壁			初登頂
63	中川 裕 (29,302m) 1960.8. 生 (37才)	a.サトバント	7,075	I	1990.8.11	H A J	北稜		57	
		b.ヌン	7,135	I	1995.8.16	H A J	西稜			
		c.ムスターグ・アタ	7,546	C	1996.8.13	H A J	西稜			
		d.ムスターグ・アタ	7,546	C	1996.9.14	浪	西稜			
64	安藤 昌之 (29,280m) 1955.11. 生 (42才)	a.ユクシン・ガルダンサール	7,530	P	1984.7.25	弘前大学	南西面		59	
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	弘前大学	ツェト			
		c.ディラン	7,257	P	1989.7.12	弘前大学	北稜			初登攀
		d.ウルタルII	7,388	P	1996.7.31	カトマンズクラブ	南稜			初登攀
65	新郷 信廣 (29,250m) 1943.3. 生 (54才)	a.マモストーン・カンリ	7,526	I	1984.9.15	H A J	北東稜		60	
		b.カルジャン	7,216	C	1986.10.14	H A J	西壁			初登頂
		c.リモI	7,385	I	1988.7.29	H A J	南壁			初登頂
		d.ピラミッド・ピーク	7,123	I	1993.4.24	H A J	北東稜			初登頂
66	黒滝 淳二 (29,116m) 1952.10. 生 (45才)	a.テラムカンリIII	7,382	P	1979.8.4	弘前大学	南東面		61	
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	弘前大学	ツェト			
		c.コムニズム	7,495	S	1988.7.30	弘前大学	ボロド			
		d.レーニン	7,134	S	1988.8.7	弘前大学	ラズジ			
67	鈴木 正典 (29,018m) 1961.12. 生 (36才)	a.ピラミッド・ピーク	7,123	I	1993.4.26	H A J	北東稜		62	
		b.マナNW	7,092	I	1995.8.19	山形	南東稜			初登頂
		c.ディラン	7,257	P	1996.7.24	パーバリアン	西稜			初登攀
		d.ムスターグ・アタ	7,546	C	1996.9.14	浪	西稜			
68	堀 弘 (28,991m) 1957.8. 生	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	弘前大学	ツェト		63	
		b.コムニズム	7,495	S	1988.7.30	弘前大学	ボロド			
		c.レーニン	7,134	S	1988.8.7	弘前大学	ラズジ			

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(40才)	d.ディラン	7,257	P	1989.7.12	弘前大学	北稜	初登攀	
69	黒沢孝夫 (28,744m) (48才)	a.コルジュネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ハン・テングリ	7,105 7,495 7,134 7,010	S S S S	1981.7.26 1981.8.4 1983.7.30 1992.8.9		ツェト ボロド スクラ ボグレ		64
70	×北沢真一 (28,259m) 1952.2.生	a.コルジュネフスカヤ b.レーニン c.ハン・テングリ d.ハン・テングリ	7,105 7,134 7,010 7,010	S S S S	1986.7.24 1986.8.15 1989.8.6 1989.8.15	N C P N C P 労山 労山	ツェト ラズジ ソロマ "	帰路死亡	65
71	村上和也 (25,975m) 1955.3.生 (42才)	a.ローツェ b.サガルマータ c.K2	8,516 8,848 8,611	N N P	1983.10.19 1983.12.16 1985.7.24	カモシカ同人 カモシカ同人 H A J	西面 南東稜 南東稜	日本人初登 冬期第三登	66
72	竹内洋岳 (25,922m) 1971.1.生 (26才)	a.マカルー b.チョモランマ c.K2	8,463 8,848 8,611	C C P	1995.5.22 1996.5.17 1996.8.14	J A C 立正大学 J A C	東稜下 北稜 南南東	初登攀	67
73	×吉野寛 (25,626m) 1950.2.生	a.ダウラギリI b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1978.5.11 1982.8.14 1983.10.8	イエティ同人 J M A イエティ同人	南稜 北稜 南東稜	初登攀 " O ₂ レス	68
74	×禿博信 (25,626m) 1951.10.生	a.ダウラギリI b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1981.6.2 1982.8.15 1983.10.8	高山研究所 J M A イエティ同人	北東稜 北稜 南東稜	単独 初登攀O ₂ レス O ₂ レス	69
75	貫田宗男 (25,314m) 1951.3.生 (46才)	a.ダウラギリV b.チョモランマ c.サガルマータ	7,618 8,848 8,848	N C N	1979.10.9 1991.5.27 1994.10.10	カモシカ同人 貴田／二上 宮原／貫田	南稜 北稜 南東稜		70
76	鈴木昇己 (25,144m) 1953.2.生 (44才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.サガルマータ	7,710 8,586 8,848	N N N	1976.5.10 1980.5.14 1983.10.8	山学同志会 山学同志会 山学同志会	北壁 北壁 南東稜	初登攀 O ₂ レス O ₂ レス	71
77	中村省爾 (25,120m) 1942.5.生 (55才)	a.ダウラギリIV b.K2 c.チョモランマ	7,661 8,611 8,848	N P C	1975.10.21 1977.8.8 1988.5.5	カモシカ同人 J M A J A C	南面 南東稜 北東稜	第二登	72
78	佐藤光由 (25,100m) 1961.4.生 (36才)	a.サガルマータ b.チャー・オユー c.ブロード・ピークM	8,848 8,201 8,051	N C P	1985.10.30 1993.10.8 1997.7.16	植村直巳物語 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南東稜 北西面 西稜		
79	井本重喜 (24,942m) 1963.1.生 (34才)	a.ヒマチュリM b.チャー・オユー c.チョモランマ	7,893 8,201 8,848	N C C	1986.10.26 1994.9.27 1995.5.11	日本大学 日本大学 日本大学	南稜 北西面 北東稜	初登攀	73
80	坂下直枝 (24,907m) 1947.2.生 (50才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ	7,710 8,586 8,611	N N N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.14	山学同志会 山学同志会 J M A	北壁 北壁 北稜	初登攀 "O ₂ レス "O ₂ レス	74
81	×大西宏	a.ラカボシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	東稜		77

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(24,321m) 1962.5. 生	b.サガルマータ c.マカルー	8,848 8,463	N N	1989.10.13 1990.5.6	カトマンズクラブ 高山研究所	南東稜 北西稜		
82	山野井 泰史 (24,287m) 1965.4. 生 (31才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャーブルムII c.チョー・オユー	8,051 8,035 8,201	P P C	1991.7.30 1993.7.31 1994.9.23	バイネニアサブ バイネニアサブ	西稜 南西稜 南西壁	初登攀A P	78
83	菊池 守 (24,180m) 1955.5. 生 (42才)	a.ナンガ・バルバット b.ニンチン・カンサ c.チョモランマ	8,126 7,206 8,848	P C C	1985.7.8 1995.8.17 1996.5.13	福岡大学 福岡大学 福岡市山協	西面 南面 北稜		79
84	賀集 信 (23,998m) 1949.1. 生 (48才)	a.マッシャーブルム b.ブロード・ピークM c.ナンガ・バルバット	7,821 8,051 8,126	P P P	1985.7.23 1985.8.12 1997.7.18	関西カラコルム 関西カラコルム 関西カラコルム	北西壁 西稜 西面	初登攀	
85	吉田 裕一 (23,996m) 1970.8. 生 (27才)	a.ガッシャーブルムII b.ジンミゲラ・チュリ c.K2	8,035 7,350 8,611	P N P	1993.7.22 1995.10.16 1996.8.12	東京農業大学 東京農業大学 J A C	南西稜 西稜 南南東	初登攀	80
86	長久保 浩司 (23,996m) 1969.4. 生 (28才)	a.ガッシャーブルムII b.ジンミゲラ・チュリ c.K2	8,035 7,350 8,611	P N P	1993.7.22 1995.10.16 1996.8.14	東京農業大学 東京農業大学 J A C	南西稜 西稜 南南東	初登攀	81
87	鈴木 清彦 (23,885m) 1957.2. 生 (40才)	a.ガウリシャンカールS b.シシャバンマM c.サガルマータ	7,010 8,027 8,848	N C N	1984.10.19 1989.4.16 1994.5.8	J A C 東海 愛知学院大学 愛知学院大学	南東稜 北東稜 南稜	初登攀	82
88	林 孝二 (23,721m) 1951.9. 生 (46才)	a.シシャバンマC b.ダウラギリI c.ムスターグ・アタ	8,008 8,167 7,546	C N C	1994.5.18 1995.10.6 1996.8.17	労山 労山 大阪労山	北東稜 北東稜 西稜		84
89	大宮 求 (23,639m) 1949.4. 生 (48才)	a.カンチェンジュンガM b.シシャバンマC c.サトバントW	8,586 8,008 7,045	N C I	1980.5.17 1982.10.12 1983.5.22	山学同志会 高山研究所 山学同志会	北壁 北東稜 北西稜	初登攀O ₂ レス 初登頂	85
90	高見 和成 (23,595m) 1945.5. 生 (52才)	a.カンピレディオール b.ナンダデヴィW c.チョゴリ	7,168 7,816 8,611	P I C	1975.6.14 1976.6.15 1982.8.15	広島山の会 J A C J M A	北西稜 主峰～ 北稜	初登頂 東峰縦走 初登攀O ₂ レス	86
91	×小松 幸三 (23,579m) 1954.1. 生	a.ダウラギリIV b.ダウラギリII c.ダウラギリI	7,661 7,751 8,167	N N N	1975.10.21 1979.10.13 1982.10.18	カモシカ同人 カモシカ同人 カモシカ同人	南面 II・III・V縦走 北西稜	初登攀	87
92	中西 紀夫 (23,546m) 1958.3. 生 (39才)	a.アンナプルナ・ダクシン b.ナンガ・バルバット c.チョー・オユー	7,219 8,126 8,201	N P N	1978.10.16 1983.7.31 1985.10.3	明治大学 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ	南西稜 西面 北西面	初登攀 日本人初登 日本人初登	88
93	小笠原 岩雄 (23,436m) 1952.11. 生 (47才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャー・ブルムII c.ジンミゲラ・チュリ	8,051 8,035 7,350	P P N	1991.7.21 1993.7.22 1995.10.17	東京農業大学 東京農業大学 東京農業大学	西稜 南西稜 西稜	初登攀	89
94	吉田 憲司 (23,300m) 1953.1. 生 (44才)	a.ハチングール・キッシュ b.マモストン・カンリ c.K2	7,163 7,526 8,611	P I P	1982.8.4 1984.9.13 1985.7.24	金沢大学 H A J H A J	東壁 北東稜 南東稜	初登頂 初登頂	90

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
95	×日野悦郎 (23,270m) 1940.5. 生	a.ニルギリN	7,061	N	1981.5.7	福岡G C C	東稜	越境 52才	91
		b.チョー・オユー	8,201	C	1986.10.16	北九州	北西面		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1992.5.6	J A C 福岡	北東稜		
96	桑原 巖 (23,185m) 1935.11. 生 (62才)	a.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労 山	ボグレ	58才 59才	92
		b.シシャパンマC	8,008	C	1994.5.19	労 山	北東稜		
		c.ダウラギリI	8,167	N	1995.10.6	労 山	北東稜		
97	島方健次 (23,040m) 1947.12. 生 (50才)	a.ハラモシュ	7,409	P	1978.7.22	昭和山岳会	北西面		94
		b.チャンツェ	7,580	C	1986.5.10	J M A	東稜		
		c.ブロード・ピークM	8,051	P	1988.7.27	昭和山岳会	西稜		
98	平林克敏 (23,014m) 1934.12. 生 (63才)	a.アビ	7,132	N	1960.5.10	同志社大学	北面	初登頂	95
		b.サイバル	7,034	N	1963.10.21	同志社大学	南面	〃	
		c.サガルマータ	8,848	N	1970.5.12	J A C	南東稜	日本人初登	
99	×広島三朗 (22,998m) 1943.3. 生	a.K2	8,611	P	1977.8.9	J M A	南東稜	日本人初登	
		b.スバンティーク	7,027	P	1992.8.14	神奈川ヒマラヤ	南東稜		
		c.スキルブルム	7,360	P	1997.8.17	神奈川ヒマラヤ	南西稜		
100	松林公蔵 (22,983m) 1950.5. 生 (47才)	a.カンベンチン	7,281	C	1982.4.21	A A C K	東面	初登頂	96
		b.ナムナニ	7,694	C	1985.5.26	A A C K	西面	〃	
		c.シシャパンマC	8,008	C	1990.5.21	A A C K	北東稜		
101	八嶋 寛 (22,979m) 1950.3. 生 (47才)	a.トリスルI	7,120	I	1978.9.28	H A J	南稜	初登攀	97
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	H A J	南東面	日本人初登	
		c.チョー・アウイ	7,354	C	1986.10.14	H A J	西稜	初登頂	
102	×小林利明 (22,939m) 1948.12. 生	a.ダウラギリI	8,167	N	1978.5.8	イエティ同人	南稜	初登攀	98
		b.シア・カンリ	7,422	P	1979.7.30	京都カラコルム	南西面		
		c.バルトロ・カンリ	7,350	P	1979.8.4	京都カラコルム	北東面		
103	中島俊弥 (22,848m) 1964.12. 生 (33才)	a.ダウラギリI	8,167	N	1991.10.11	昭和山岳会	北東稜		99
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1993.8.17	H A J	西稜		
		c.ヌン	7,135	I	1995.8.16	H A J	西稜		
104	×角田不二 (22,760m) 1952.9. 生	a.トリスルI	7,120	I	1978.9.28	H A J	南稜	初登攀	100
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	H A J	南東面	日本人初登	
		c.ヌン	7,135	I	1983.8.16	H A J	西稜		
105	田村正勝 (22,732m) 1942.4. 生 (55才)	a.ヌン	7,135	I	1991.8.14	H A J	西稜	51才	101
		b.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.7.21	わらじの仲間	西稜		
		c.ムスターグ・アタ	7,546	C	1994.8.18	H A J	西稜		
106	大谷 亮 (22,721m) 1959.9. 生 (38才)	a.カンチェンジュンガC	8,482	N	1984.5.17	J A C	南西面	日本人初登	102
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1990.7.27	J A C	ツェト		
		c.レーニン	7,134	S	1990.8.6	J A C	ラズジ		
107	駒宮博男 (22,637m) 1954.5. 生 (43才)	a.コムニズム	7,495	S	1982.8.2	高山研究所	ポロド		103
		b.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
		c.レーニン	7,134	S	1983.8.2	高山研究所	ラズジ		
108	服部 徹 (22,500m) 1970.1. 生 (27才)	a.ハンテグリ	7,010	C	1994.8.10		ソロマ	縦走	104
		b.ポベーダ	7,439	C	1994.8.18		Sイヌ		
		c.ブロード・ピークM	8,051	P	1995.7.19	F O S	N-C		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
109	倉橋秀都 (22,457m) 1960.2.生 (37才)	a.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労山	ボグレ		105
		b.ポベータ	7,439	S	1991.8.14	労山	ヴァジ		
		c.シシャバンマC	8,008	C	1994.5.18	労山	北東稜		
110	吉田秀樹 (22,446m) 1953.5.生 (44才)	a.リモI	7,385	I	1988.7.28	H A J	南壁	初登頂	
		b.ハン・テングリ	7,010	S	1990.7.31	信州大学	西稜		
		c.ブロード・ピークM	8,051	P	1997.7.16	群馬県山岳連盟			
111	小泉章夫 (22,401m) 1955.11.生 (42才)	a.クンヤン・チッシュN	7,108	P	1979.7.11	北海道大学	北稜	初登頂	107
		b.ダウラギリI	7,167	N	1982.12.13	北海道大学	北東稜	冬期初登頂	
		c.ヒムルン・ヒマール	7,126	N	1992.10.3	北海道大学	北西面	初登頂	
112	広瀬学 (22,311m) 1967.3.生 (30才)	a.コルジュネフスカヤ	7,105	S	1990.7.27	J A C	北東稜		
		b.ナイブン	7,043	C	1991.11.25	J A C			
		c.マナスル	8,163	N	1997.10.9	明治大学			
113	岡林良一 (22,271m) 1951.11.生 (46才)	a.ヌン	7,135	I	1985.8.15	川崎教員	西稜		108
		b.ナンガ・バルバット	8,126	P	1987.8.19	川崎教員	西面		
		c.ハン・テングリ	7,010	S	1992.8.1	東農工大	ボグレ		
114	横山英雄 (22,122m) 1942.4.生 (55才)	a.プマリ・チッシュ	7,492	P	1979.7.15	北海道山岳連盟	北西稜	初登頂	日本人初登
		b.ラキオト・ピーク	7,074	P	1985.7.11	札幌山岳会			
		c.ミニヤ・コンカ	7,556	C	1997.5.2	札幌山岳会			
115	志小田美弘 (22,106m) 1959.1.生 (38才)	a.チョー・アウイ	7,354	C	1986.10.12	H A J	北西稜	初登頂	
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1993.8.17	H A J	西稜		
		c.ニンチン・カンサ	7,206	C	1997.8.17	H A J	西稜		
116	高橋敏雄 (22,106m) 1958.10.生 (39才)	a.チョー・アウイ	7,354	C	1986.10.14	H A J	北西稜	初登頂	
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1993.8.17	H A J	西稜		
		c.ニンチン・カンサ	7,206	C	1997.8.17	H A J	西稜		
117	金子秀一 (21,946m) 1958.4.生 (38才)	a.レーニン	7,134	S	1989.8.16	バーバリアン	ラズジ		109
		b.レーニン	7,134	S	1992.7.26		ラズジ		
		c.マカルーII	7,678	N	1992.9.25		東稜		
118	金子珠美 (21,946m) 1958.4.生 (39才)	a.レーニン	7,134	S	1989.8.16	バーバリアン	ラズジ		110
		b.レーニン	7,134	S	1992.7.26		ラズジ		
		c.マカルーII	7,678	N	1992.9.25		東稜		
119	天城敵彦 (21,827m) 1947.5.生 (50才)	a.サトバント	7,075	I	1990.8.10	H A J	北稜		
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1993.8.18	H A J	西稜		
		c.ニンチン・カンサ	7,206	C	1997.8.18	H A J	西稜		
120	橋本康弘 (21,796m) 1954.8.生 (43才)	a.ギャラ・ペリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂	111
		b.ラブチュ・カン	7,367	C	1987.10.27	H A J	西稜	初登頂	
		c.ヌン	7,135	I	1991.8.14	H A J	西稜		
121	燕昇司実 (21,757m) 1942.8.生 (55才)	a.スパンティーク	7,027	P	1992.8.15	神奈川ヒマ	南稜		112
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1994.8	西稜			
		c.ムスターグ・アタN	7,184	C	1996.8.12		西稜		
122	関根幸次 (21,756m) 1933.10.生 (64才)	a.サトバント	7,075	I	1990.8.10	H A J	北稜		113
		b.ヌン	7,135	I	1992.8.15	H A J	西稜		
		c.ムスターグ・アタ	7,546	C	1994.8.19	H A J	西稜		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
123	三原洋子 (21,755m) 1941.5. 生 (56才)	a. サトバント	7,075	I	1983.8.24	婆娑羅衆	北稜		114
		b. ムスターグ・アタ	7,546	C	1986.8.16	西域研究会	西稜		
		c. レーニン	7,134	S	1989.8.16		ラズジ		
124	7名 (21,734m)	a. コムニズム	7,495	S	×井波美保、松永忠則、鴨川正昭、齊藤正、 入瀬透、横森健治、梶山正、				115
		b. レーニン	7,134	S					
		c. コルジェネフスカヤ	7,105	S					
131	×山崎彰人 (21,721m) 1967.7. 生	a. クラウン	7,295	C	1993.7.22	J A C 東海	東壁	初登頂	122
		b. チリン	7,038	C	1994.7.19	岐阜大学	北東稜	初登頂	
		c. ウルタルII	7,388	P	1996.7.11	J A C 東海	南稜	初登頂	
132	橋口徹 (21,667m) 1970.6. 生 (27才)	a. コムニズム	7,495	S	1991.7.29	東海山岳会	ボロド		123
		b. レーニン	7,134	S	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
		c. ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.14	信州大学	西稜		
133	溝手康史 (21,465m) 1955.5. 生 (42才)	a. ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労山	ソロマ		124
		b. ポベータ	7,439	S	1991.8.14	労山	ヴァジ		
		c. アクタシ	7,016	I	1993.8.6	広島山岳会	南西壁		
134	川崎浩史 (21,416m) 1964.1. 生 (33才)	a. ヌン	7,135	I	1986.10.1	東洋大学	北西稜		
		b. サトバント	7,075	I	1990.6.12	ワニ眼クラブ	北稜		
		c. ニンチン・カンサ	7,206	C	1997.8.17	H A J	西稜		
135	花井修 (21,363m) 1952.1. 生 (45才)	a. クンヤン・チッシュN	7,108	P	1979.7.11	北海道大学	北稜	初登頂	125
		b. バルンツェ	7,129	N	1980.12.15	北海道大学	南稜	冬期初登頂	
		c. ヒムルン・ヒマール	7,126	N	1992.10.3	北海道大学	北西面	初登頂	
136	井上仁 (21,249m) 1958.11. 生 (39才)	a. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1992.8.				
		b. レーニン	7,134	S	1992.8.				
		c. ハン・テングリ	7,010	S	1994.8.				

- (注) 1) *印欄の数字は1996年12月末現在での順位
2) 氏名の前の×印は故人
3) 地域のNはネパール、Pはパキスタン、Iはインド、Cは中国、Sは旧ソ連
4) 標高については原則として平凡社刊「ヒマラヤ名峰事典」を用いたが、一部新しい情報のある山についてはその数値を採用した。

高齢登頂 (7,000m以上・実) トップ18

1. 加藤 幸彦(63) 1996	チョモラーリ	12. ×小西 政継(59) 1996	マナスル
2. 三角 朗(62) 1992	ハン・テングリ	13. 田部井淳子(56) 1996	チョー・オユー
3. 野口 道雄(60) 1997	ニンチン・カンサ	14. 沢田 幸子(56) 1997	ムスターグ・アタ
4. 関根 幸次(60) 1994	ムスターグ・アタ	15. 嶋村美美子(56) 1989	レーニン
5. 斎藤 惇生(60) 1990	シシャパンマC	16. 渡辺 玉枝(55) 1994	ダウラギリ I
6. ×原田 達也(60) 1995	シシャパンマC	17. 池田 錦重(55) 1994	ダウラギリ I
7. ×土森 譲(60) 1997	スキルブルム	18. 蒔苗 政義(55) 1997	リスム
8. 桑原 巖(59) 1995	ダウラギリ	旧ソ連を除く 30,000m以上 (41名)	
9. 石川 富康(59) 1996	マナスル	1. 山田 昇 14座	115,804m
10. 中島 道郎(59) 1990	シシャパンマC	2. 尾形 好雄(49) 11座	85,583m
11. 山本 俊雄(59) 1995	チョー・オユー	3. 田辺 治(36) 9座	71,649m

4. 岩崎 洋(37) 9座 67,046m	3. 桑原 巖(59) 1995 ダウラギリ I
5. 山本 篤(35) 8座 65,105m	4. 石川 富康(59) 1996 マナスル
6. 重廣 恒夫(50) 8座 63,435m	5. 中島 道郎(59) 1990 シシャ・パンマC
7. 名塚 秀二(43) 7座 59,197m	6. 山本 俊雄(59) 1995 チョー・オユー
8. 三谷統一郎(39) 7座 56,966m	7. ×小西 政継(57) 1996 マナスル
9. 尾崎 隆(45) 6座 51,012m	8. 田部井淳子(56) 1996 チョー・オユー
10. 小西 浩文(35) 6座 48,530m	9. 渡辺 玉枝(55) 1994 ダウラギリ I
11. 宮崎 勉(50) 6座 47,796m	10. 池田 錦重(55) 1994 ダウラギリ I
12. 今村 裕隆(38) 6座 47,795m	11. 根津 皖一(54) 1994 ダウラギリ I
13. 後藤 文明(31) 6座 47,371m	12. 鈴木 孝雄(54) 1992 シシャパンマC
14. 加藤 保男 5座 42,523m 1982年死亡	13. 近藤 和美(53) 1955 ダウラギリ I
15. 三枝 照雄 5座 42,015m 1989年死亡	14. 川原 慶紀(53) 1994 シシャパンマC
16. 石川 富康(61) 5座 41,387m	15. 島山 正昭(52) 1995 チョー・オユー
17. 江塚 進介(36) 5座 41,203m	16. 倉井 登代(52) 1996 チョー・オユー
18. 星野 龍史(30) 5座 40,540m	17. ×日野 悦郎(51) 1992 シシャパンマC
19. 谷川 太郎(30) 5座 40,510m	18. 田村 正勝(51) 1993 ブロード・ピークM
20. 山本 宗彦(38) 5座 40,193m	19. 宮崎 勉(49) 1997 ガッシャー・ブルムII
21. 谷口 守(49) 5座 39,800m	20. 酒井 國光(49) 1988 ブロード・ピークM
22. 佐藤 正倫 5座 39,161m 1993年死亡	21. 尾形 好雄(49) 1997 ブロード・ピークM
23. 和田 城志(48) 5座 39,034m	22. 成崎 公生(48) 1995 ダウラギリ I
24. 近藤 和美(55) 5座 38,561m	23. 馬場 保男(48) 1997 ガッシャーブルムII
25. 川村 晴一(49) 4座 33,755m	24. 賀集 信(48) 1997 ナンガ・パルバット
26. 八木原愔明(51) 4座 33,215m	25. 真嶋 花子(47) 1996 チョー・オユー
27. 遠藤 晴行(40) 4座 33,077m	26. 山本 秀夫(47) 1997 ナンガ・パルバット
28. 戸高 雅史(36) 4座 32,823m	27. 池田 壮彦(47) 1994 シシャパンマC
29. 山野井妙子(41) 4座 32,750m	28. 阿久津悦夫(47) 1985 サガルマータ
30. 田部井淳子(58) 4座 32,631m	29. ×難波 康子(47) 1996 サガルマータ
31. 吉田 文江(42) 4座 32,454m	30. 金沢 健(46) 1992 チョー・オユー
32. 遠藤 由加(31) 4座 32,430m	31. 八木原愔明(46) 1993 チョー・オユー
33. 大谷 映芳(49) 4座 32,138m	32. 原 真(46) 1982 シシャパンマC
34. 小西 政継 4座 32,048m 1996年死亡	33. ×俵谷 久義(45) 1995 ダウラギリ I
35. 北村 俊之(35) 4座 31,640m	34. 中村 省爾(45) 1988 チョモランマ
36. 斎藤 安平 4座 31,431m 1987年死亡	35. 佐藤 信二(45) 1996 チョー・オユー
37. 二上 純一 4座 31,166m 1991年死亡	36. 滝根 正幹(45) 1997 K 2
38. 重野太壮二(53) 4座 31,100m	37. 谷口 守(45) 1994 ガッシャーブルム I
39. 飛田 和夫(51) 4座 30,377m	38. 高橋 通子(44) 1987 チョー・オユー
40. 野沢井 歩(33) 4座 30,169m	39. 伊藤 清春(44) 1995 チョー・オユー
41. 保坂 昭憲(49) 4座 30,012m	40. 斎藤 敏明(44) 1996 チョー・オユー
	41. 馬場 博行(44) 1992 チョー・オユー

8,000m峰高齢登頂(実) トップ41

1. 斎藤 惇生(60) 1990 シシャパンマC
2. ×原田 達也(60) 1995 シシャパンマC

事務局日記 (1月)

- 6日(火) 仕事始め
- 8日(木) 山森専務理事が、NHK国際放送(ラジオ)で「ヒマラヤのゴミ問題」について10分間講演。1月17日放送
- 9日(金) ヒマラヤ315号発送
- 10日~11日 ニンチン・カンサ隊合宿(於、ルーム、山森以下9名)
- 13日(火) JACホームページ打ち合わせ(於、JAC、山森)
CMAへ本年のカバン峰延期を連絡
- 23日(金) ハリッシュ・カパディア氏来日(成田へ出迎へ、宮崎、中川、岩崎)
- 24日(土) CMA汪鉄銘副主席、李豪傑氏来日(成田へ出迎へ、山森)
中国、インド歓迎会(於、池袋・高松にて、遠藤、稲田、山森ら14名)
- 25日(日) 創立30周年記念講演会(於、科学技術館・240名&祝賀会 於、九段会館・270名)

- 26日(月) 中国、インド、サヨナラパーティ(於、池袋・日本橋亭、遠藤、山森、八木原ら12名)
座談会(於、ルーム、稲田、沖ら6名)
吉沢一郎氏葬儀(於、池上、遠藤、山森、八木原、尾形、中川)
- 27日(火) 中国、汪鉄銘氏一行帰国(山森)
都岳連新春岳人の集い(於、スクワール麴町、遠藤、山森)
東京集会(10名)

ヒマラヤ No.316 (3月号)

平成10年2月10日印刷 10年3月1日発行
発行人 稲田 定重
編集人 山森 欣一
発行所 日本ヒマラヤ協会
〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号
電話 03-3988-8474
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高压バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店 : 日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先 : 株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階
TEL : 03-5245-0511 FAX : 03-5245-0510
(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。



マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

遥かなる高みへ



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のパイオニア



株式会社 西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU. NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブルーカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1 ブルーカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メールオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004